

みずほマーケット・トピック(2019 年 10 月 25 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

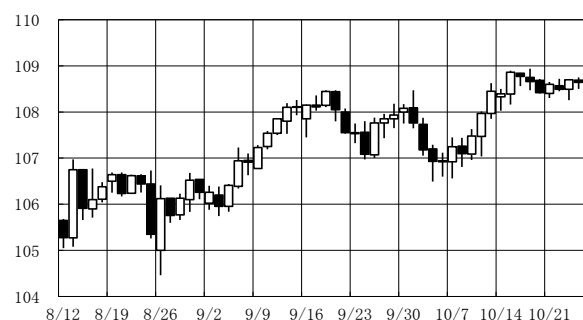
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は往ってこいの展開。週初 21 日に 108 円台半ばでオープンしたドル/円は、先週末の英議会で EU 離脱案の採決延期決定を受けたポンド/円に 108 円台前半まで連れ安となったが、合意なき離脱の可能性は依然低いとの見方に、108 円台半ばまで反発し、その後は底堅く推移した。22 日は、英国の EU 離脱に関して楽観的な見方が根強く残る中、東京休場の影響で大きな動きはなく狭いレンジで推移した。23 日は、前日の米国株下落を受けて、日経平均株価が寄り付き後に急落する中、英議会で EU 離脱協定関連法案を 3 日間で審議する動議を否決したことを受けたポンド/円の下落もあって、一時週安値の 108.25 円まで下落した。その後は、米金利が低下幅を縮小する動きや、原油価格高騰を背景に上昇した資源国のクロス円を追い風にじり高で推移し、米 10 年債利回りが 1.75%を超えるとドル/円も 108 円後半まで上昇した。24 日はペンス米副大統領の演説を控え、様子見ムードのなか、108 円台半ばを推移。米 10 月製造業 PMI が予想を上回ると底堅い推移が続き、副大統領の演説もドル/円への影響は限定的で、その後も狭いレンジの推移が続いた。本日は 108 円台半ばの推移が続いている。
- 今週のユーロ/ドル相場はユーロ高の展開。週初 21 日に 1.11 台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、ブレグジット合意への期待感を受けたポンド/ユーロに連れ高となり、一時週高値の 1.1180 まで上昇。22 日は、EU がイタリアの来年度予算案がユーロ圏の財政規律に遵守してないと指摘したことや、欧州株が上げ幅を縮小する動きに圧迫され、じりじりと下落するが、ユーロ/円の上昇にサポートされ、1.11 台半ばまで反発した。その後、英議会で 10 月末までの EU 離脱案合意が難しいとの報道を受けたポンド/ユーロに連れ安となり、1.11 円前半まで下落。23 日は、10 月中のブレグジット合意への期待が後退する中、じりじりと下落も、翌日に ECB 理事会を控える中で反発し、様子見ムードの小幅推移が続いた。24 日は ECB 理事会にて政策金利の据え置きが発表されたが、ユーロ/ドルへの影響は限定的で、その後はブレグジットを巡る英国での総選挙の可能性を受けたポンドに連れ安となり、一時週安値の 1.1093 まで下落した。本日は 1.11 付近の推移が続いている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		10/18(Fri)	10/21(Mon)	10/22(Tue)	10/23(Wed)	10/24(Thu)
ドル/円	東京9:00	108.60	108.41	108.60	108.48	108.63
	High	108.72	108.65	108.73	108.70	108.75
	Low	108.39	108.29	108.44	108.25	108.50
	NY 17:00	108.42	108.60	108.49	108.70	108.64
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1125	1.1156	1.1152	1.1129	1.1132
	High	1.1172	1.1180	1.1156	1.1141	1.1163
	Low	1.1115	1.1138	1.1117	1.1107	1.1094
	NY 17:00	1.1172	1.1151	1.1126	1.1130	1.1104
ユーロ/円	東京9:00	120.82	120.94	121.11	120.72	120.90
	High	121.10	121.46	121.27	121.05	121.38
	Low	120.69	120.83	120.59	120.40	120.44
	NY 17:00	121.10	121.09	120.69	120.99	120.63
日経平均株価		22,492.68	22,548.90	-	22,625.38	22,750.60
TOPIX		1,621.99	1,628.60	-	1,638.14	1,643.74
NYダウ工業株30種平均		26,770.20	26,827.64	26,788.10	26,833.95	26,805.53
NASDAQ		8,089.54	8,162.99	8,104.30	8,119.79	8,185.80
日本10年債		-0.15%	-0.14%	-	-0.14%	-0.15%
米国10年債		1.75%	1.80%	1.76%	1.76%	1.77%
原油価格(WTI)		54.02	53.51	54.48	55.97	56.23
金(NY)		1,496.40	1,488.10	1,487.50	1,495.70	1,504.70

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、29日(火)～30日(水)の日程でFOMCが開催される。前回FOMC(9月17～18日開催)では、FF金利誘導目標が25bps引き下げられて1.75～2.00%とされた。政策メンバーの金利見通し(いわゆるドットチャート)は、2回の利下げ実績を踏まえて6月時点より分布は下方にシフトも、FF金利の年末水準を中央値でみると、2019年と2020年が1.875%、2021年は2.125%、2020年は2.375%と、利下げに打ち止め感が示唆された。人数構成でみると、2019年末で1.625%(1回利下げ)は7名、1.875%(現状維持)以上が10名、2020年末では1.625%が8名、1.875%以上は9名となる。つまり、2020年末にかけて「利下げはあっても残り1回」という意見集約が進んでいるようにみえる。一方で、長期的に望ましい政策金利(いわゆる中立金利、中央値2.5%)の分布は下方に伸びる格好となっており、利上げ復帰後の着地点については目線が下がった。パウエル議長は会見で、下方リスクが明確になれば連続利下げに至る可能性を示唆。引き続き、利下げを支援する材料には注意したい。ただ、9月会合以降、米中では通商問題で部分的に暫定合意に至る等の改善がみられるほか、9月以降みられた短期金利上昇についても準備預金水準の引き上げ策でFRBは対応済み(金融規制対応が目的であり量的緩和ではないと言明)。今会合では追加緩和は見送られそうだ。このほか、金融政策関連では、1日(金)にクラリダ理事の講演や、クォールズ理事のイェール大学でのイベントへの参加、ウィリアムズNY連銀総裁のラトガー大学でのイベントへの参加が予定されている。
- ・本邦では、30日(水)～31日(木)の日程で金融政策決定会合が開催される。もともと、日銀にとって最重要な政策反応係数とみられるドル/円相場は、9月会合以降は108円を前後する展開となっている。追加緩和手段に乏しい日銀があえてこのタイミングで動く蓋然性はない。今会合においても現状維持が予想される。

	本 邦	海 外
10月25日(金)	・9月工作機械受注(確報)	・独11月GfK消費者信頼感 ・独10月IFO企業景況感指数 ・米10月ミシガン大学消費者マインド指数(確報)
28日(月)	-----	・米9月シカゴ連銀全米活動指数 ・米9月卸売在庫(速報) ・米10月ダラス連銀製造業活動指数
29日(火)	・10月東京都都区部CPI	・米10月カンファレンスボード消費者信頼感指数 ・米FOMC(～30日)
30日(水)	・9月小売売上高 ・金融政策決定会合(～31日)	・独10月CPI(速報) ・ユーロ圏8月CPI(確報) ・米10月ADP雇用統計 ・米3Q GDP(速報)
31日(木)	・9月鉱工業生産(速報) ・9月建設工事受注 ・BOJ展望レポート(基本的見解)	・ユーロ圏9月失業率 ・ユーロ圏3Q GDP(速報) ・ユーロ圏10月CPI(速報) ・米9月個人消費支出 ・米10月シカゴ購買部協会景気指数
11月1日(金)	・9月失業率 ・9月有効求人倍率 ・10月製造業PMI(確報) ・10月自動車販売台数 ・BOJ展望レポート(全文)	・米10月雇用統計 ・米10月製造業PMI(確報) ・米10月ISM製造業景気指数 ・米9月建設支出 ・米10月自動車販売台数

【当面の主要行事日程(2019年10月～)】

日銀金融政策決定会合(10月30～31日、12月18～19日、1月20～21日)
 ECB政策理事会(12月12日、1月23日、3月12日)
 米FOMC(10月29～30日、12月10～11日、1月28～29日)
 APEC首脳会議(11月16～17日、サンティアゴ)

市場営業部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年10月24日	またも史上最小値幅～体感「5円」以下という異例～
2019年10月23日	「リブラ」阻止で一致するG20～ザッカーバーグ証言を前に～
2019年10月21日	思い出したい「10月31日」の経緯～次に起こることは～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年9月分)
2019年10月18日	週末版(2度目の離脱協定案合意～3つの論点を整理～)
2019年10月16日	FRBのTB購入を受けて～欲しかった「ずる賢さ」～
2019年10月11日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～議論紛糾の読み方、議事要旨としては秀逸～)
2019年10月10日	円相場の需給環境について～縮小均衡～
2019年10月9日	FRBの資産購入再開と懐かししのソロスチャート
2019年10月8日	揺らぐリブラ計画～初のメンバー脱退表明を受けて～
2019年10月7日	米9月雇用統計を受けて～「思ったより悪くない」の危うさ～
2019年10月4日	週末版(製造業から非製造業への波及は始まったのか～ISM景気指数の悪化を受けて～)
2019年10月3日	ユーロ圏の物価情勢の現状と展望～日本化の過渡期？～
2019年10月2日	ISM製造業景気指数の「底」は見えそうか？
2019年9月27日	週末版(三度起こった「ドイツの乱」～ラウテンシュレガーECB理事辞任の読み方～)
2019年9月26日	円安リスクの点検～財政政策というアップサイドリスク～
2019年9月25日	為替相場の現状を概観する～REERを通して見えること～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年8月分)
2019年9月24日	「羊頭狗肉」化するマイナス金利政策
2019年9月20日	週末版(日米金融政策決定会合を受けて～9月乗り切るも日銀の難局は続く～)
2019年9月17日	「原油高&円安」が重荷になる日本経済
2019年9月13日	週末版(ECB政策理事会レビュー～出尽くし懸念強まるパッケージ緩和～)
2019年9月11日	均衡イメージが変わらない円の基礎的需給環境
2019年9月10日	日銀会合プレビュー～9月の一手と利下げの行方～
2019年9月6日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～APP再開は困難だが、露払いをしたいところ～)
2019年9月5日	ブレグジットを巡る論点整理～ポンド/ドルは1.20割れ定着か～
2019年9月4日	米企業心理とドル相場の関係～ISM悪化を受けて～
2019年9月3日	リブラを全否定したメルシュ講演～不安はどこに～
2019年9月2日	消えない米国のドル売り介入観測について～諸刃の剣～
2019年8月30日	週末版
2019年8月29日	ユーロ圏投資ファンド統計に見るポートフォリオバランス効果
2019年8月27日	円安リスクの点検～警戒すべきトランプ減税第二弾～
2019年8月26日	円高・ドル高という地合い～105円割れを受けて～
2019年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～9月のパッケージ緩和が濃厚に？～)
2019年8月22日	FOMC議事要旨を受けて～「調整」の誘惑、日銀の経験～
2019年8月21日	ドイツのIS/バランスは遂に変わるのか？
2019年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年7月分)
2019年8月19日	YCC、捨てる日銀と拾うECB
2019年8月16日	週末版(2019年上半期の対米証券投資について～下期以降の景色は大幅変わりそう～)
2019年8月15日	ドイツに引きずられるユーロ圏経済
2019年8月14日	中国の「次の一手」として米国債売却はあるのか？
2019年8月13日	ドル高止まりによる引き締め効果～利上げ17回分？～
2019年8月9日	週末版
2019年8月6日	遂に突破した「1ドル=7.0円」～対抗措置としての元安～
2019年8月5日	米7月雇用統計を受けて～趨勢的な鈍化は明らか～
2019年8月2日	週末版(何の意味もなかったパウエル議長の失言～トランプ関税とインフレ停滞も利下げの理由に～)
2019年8月1日	FOMCを終えて～「1歩譲れば100歩求める」～
2019年7月31日	日銀金融政策決定会合～流行りの「予防的緩和」～
2019年7月30日	円安リスクの点検～英の再国民投票復活などがリスク～
2019年7月29日	ECB政策理事会レビュー～見どころの整理～
2019年7月26日	週末版
2019年7月25日	リブラと金融政策～新興国と信用創造に対する影響～
2019年7月24日	「利下げに囲まれる日銀」と「通貨政策化が進む世界」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年6月分)
2019年7月22日	ECB政策理事会プレビュー～「目標見直し」は大事業～
2019年7月19日	週末版(実質実効為替相場の現状と展望～「ドルは過大評価」とのIMF評価を受けて～)
2019年7月18日	本邦家計部門の金融リテラシーは低いのか？
2019年7月17日	欧米貿易摩擦こそ正当な貿易摩擦という考え方
2019年7月16日	株価を見なくなったドル/円相場と追い込まれる日銀
2019年7月12日	週末版
2019年7月5日	週末版
2019年7月3日	ラガルドECB総裁就任の読み方
2019年7月2日	日銀短観の読み方～「底入れ」は確認できず～
2019年7月1日	大阪G20を終えて～円相場を駆動するのは株価ではなく金利～
2019年6月28日	週末版
2019年6月26日	円安リスクの点検～大統領選前にトランプは動くか～
2019年6月25日	対外資産・負債残高の近況～令和で経験する大きな変化～
2019年6月24日	利下げ期待とドル/円相場の関係～「98年型利下げ」としても～
2019年6月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～「ドル高の修正」という大きな潮流～)
2019年6月20日	FOMCを終えて～「鏡に映った自分」に怒り続ける大統領～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年5月分)
2019年6月19日	為替市場と金利市場の期待格差について
2019年6月14日	週末版(日銀金融政策決定会合プレビュー～サプライズがあるとするならば・・・)
2019年6月13日	厳しい緩和競争が予想される日欧中銀
2019年6月12日	FRBと金融市場の「接待関係」は持続可能なのか？
2019年6月11日	ユーロ高を警戒し始めたECB～通貨安欲しさに利下げ？～
2019年6月10日	利下げを促す米雇用・賃金情勢～6月利下げも？～
2019年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～シントラから2年で振り出しに戻ったECB～)
2019年6月6日	次のカリストとしての中国の外貨準備
2019年6月5日	虚しい「フォワードルッキング」な政策運営
2019年6月4日	ECB政策理事会プレビュー～TLTRO3詳細発表へ～
2019年6月3日	「利下げタイミングを当てるゲーム」が始まりそう
2019年5月31日	週末版
2019年5月29日	米為替政策報告書を受けて～ドル高への不満も～
2019年5月28日	円安リスクの点検～円高リスク高まった5月～
2019年5月27日	ECB政策理事会議事要旨～衰える基本シナリオの信認～
2019年5月24日	週末版
2019年5月23日	ブレグジットQ&A～メイ辞任、再国民投票、勝負の6月～
2019年5月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年4月分)
2019年5月21日	ユーロ相場の需給と「ドルしか買えない」状況
2019年5月20日	「1ドル=7.00」の攻防再び